

第2章

保幼小連携・接続研修

第2章では、「学びの連続性と円滑な接続の重要性について学び、連携・接続のあり方について考える」を共通のテーマにして、4名の先生方に講演していただいた内容の概要を掲載します。

また、令和5年度から、大阪市小学校教育研究会と大阪市保育・幼児教育センターとの連携研修を実施し、幼児教育・保育と小学校教育の円滑な接続をテーマにして小学校管理職や教職員を対象とした研修会を行いました。

第2章－1 令和6年度 保幼小連携・接続研修

第1回

保幼小のバトンをつなぐ架け橋プログラム ～子どもたちの学び・育ちが、より豊かになることを願って～

日 時：令和6年7月23日（火）15:00～17:00

会 場：大阪市保育・幼児教育センター

講 師：大阪教育大学 佐久間 敦史 准教授

内 容：保幼小の連携について、幼児教育でしてきたことを小学校で発展させること、思考力を高める（考えて選ぶ）ことなど様々なことを学んだ。スタートカリキュラムスタートブックの内容や、「遊びは学び、学びは遊び、“やってみたいが学びの芽”」の動画を通して、長期的な取組について知ることができた。学校園所の現場や地域・家庭が一体となった子どもへのアプローチについても具体的な取組を知ることができた。後半は就学前施設と小学校の教職員が、連携・接続の現状について伝え合った。

第2回

保幼小連携・接続をすすめていくために ～他市の事例を参考に～

日 時：令和6年11月27日（水）15:00～17:00

会 場：大阪市保育・幼児教育センター

講 師：四天王寺大学 田辺 昌吾 准教授

内 容：保幼小連携・接続を進めていくための基本的な考え方を確認し、他市、他園の実践を聞く。「はじめの100か月の育ちビジョン」や要領・指針の記載内容を踏まえ、「0～18歳の学びの連続性」を保障するためには、幼児教育と小学校教育の架け橋プログラムが大切である。小学校の環境に適応することを意識しすぎず、幼児期の学びの芽生えから自覚的な学びに変わる発達過程を、架け橋期のカリキュラムに取り入れていくという方向性をもち、相互理解・相互尊重を大切にすすめていく。後半は就学前施設と小学校の教職員が連携・接続の現状について意見交流した。

第2章－2 令和7年度 保幼小連携・接続研修

第1回

幼児教育と小学校教育の連携・接続と架け橋期のカリキュラム

日 時：令和7年7月15日（火）15:00～17:00

会 場：大阪市保育・幼児教育センター

講 師：大阪総合保育大学 神長 美津子 特任教授

内 容：乗り越えられない「段差」から「段差」を乗り越えてステップアップする取組として「架け橋期カリキュラム」を展開し、架け橋期の教育の充実を図ることが大事である。幼児教育における「深い学び」は夢中になって遊ぶことで、体験と体験がつながって心揺れ動く体験となり深い学びにつながる。「ごっこ遊び」の例を通して、幼児教育と小学校教育の「同じような活動」から互いの子どもの姿を共有し、子どもの生活や教育の方法が異なることを留意することを学んだ。それぞれの立場から歩み寄り、興味や関心を生かした学びを意識することの大切さを学び、保幼小のグループワークを通して、今後の取組への意識が高まった。

第2回

保幼小連携・接続のための相互理解

日 時：令和7年11月10日（月）15:00～17:00

会 場：大阪市保育・幼児教育センター

講 師：関西国際大学 椋田 善之 准教授

内 容：子どもの主体的な活動を支えるために「やってみたい」「知りたい」「できるようになりたい」を大事にすること、「問い」かけることで自ら考え、判断し、行動する経験を積めるようにすることが大切だということを学んだ。幼児期の経験を教科の学びに生かす。保幼小の連携・接続は、就学前施設職員と小学校教職員が互いの教育観を尊重し合いながら、子どもの育ちをつなげようとする対話の中にあり、互いの視点が混ざり合うことで新たな気付きと実践が生まれるということが理解できた。多くのスタートカリキュラム実践事例を知ることができ、幼保小の接続のイメージにつながった。

第2章－3 令和6・7年度 大阪市小学校教育研究会と大阪市保育・幼児教育センターとの
連携研修 「保幼小連携・接続研修会」

子ども目線で考えるスタートカリキュラムの作成について

日時：令和6年7月24日（水）15:00～17:00

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：関西国際大学 椋田 善之 准教授

内容：連携とは接続を達成するために互いに協力することであり、接続とは双方の教育をつなぎ、円滑な移行を達成することである。幼児教育と小学校教育には特徴（違い）があり、相互に理解し合うことが大切である。質の高い保育は、子どもの望ましい発達と学びに結びついており、1年生はゼロからのスタートではないことが理解できた。「令和の日本型学校教育」の個別最適で協同的な学びや、PBL（問題解決学習・プロジェクト学習）型の授業展開を考えると、幼児教育から知ることでもできると学んだ。

幼児教育・保育と小学校教育の円滑な接続
ともに育てよう。保幼小連携・接続
～スタートカリキュラムをつくってみよう～

日時：令和7年7月25日（金）15:00～17:00

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：前大阪市保育・幼児教育センター所長

大阪市教育センター 足立 敦彦 OEN コーディネーター

内容：小学校と就学前施設の教育・保育についてお互いに知り合い、円滑な接続のために保幼小の連携はなくてはならないもので、推進しなければならない取組である。また、幼児期に遊びから学んでいる子どもたちの育ちをつなげていくために、幼児教育から学ぶことはあり、子どもの幼児期の経験を活かしてスタートカリキュラムを作成するなど、できることから取り組んでみる大切であるということ学ぶ。グループワークを通して、各校園所の現状を知る機会となった。